

離島における地域と学校の連携による教育実践の可能性と限界

—長崎県佐世保市黒島町民・黒島小中学校合同運動会を事例に—

張 傳博

I. はじめに

離島地域は、人口が減少しているとともに教育上でも様々な問題に直面していると考えられる。離島地域の教育事情を総合的に検討した研究には、原田ほか（2006）と森下ほか（2010）が挙げられる。いずれにおいても離島の学校教育における地域との連携の重要性が指摘されている。原田ほか（2006）は、離島地域の小中学校における教育の実態について実証的研究を行うことで、離島教育の利点及び問題点をまとめた。そこで、離島教育の利点として地域や保護者と学校の関係が言及され、離島では保護者を含めた地域住民が学校行事などに積極的に関与し、地域社会と学校との連携がより緊密であると述べた。しかしながら、それと同時に「逆に言えば、地域住民との協力なしには大きな行事は成立しない」という実情もあることを指摘した。また、森下ほか（2010）は、長崎県における離島教育の状況に関して考察した上で地域を生かした学校教育のための提言をした。そこで、「離島だからこそできる教育」の実現に向けて、地域社会と積極的に関わって地域住民との緊密な関係を築き、そして地域の素材を掘り起こして教材として活用する教員の姿勢が不可欠であると主張した。

このように、人口減少が深刻化している離島地域では、学校教育の質を上げるためには地域との連携が不可欠な要素であると考えられる。しかしながら、地域との連携は「地域の教育資源の存在を前提」としており、「必ずしも地域に十分な教育資源がない場合も想定され」なければならない（倉知，2017）。地域の教育資源が必ずしも十分でない離島地域の教育実践の展開への示唆をめざして、いかなる連携の仕組みが望ましいのか、その連携による教育実践にはいかなる効果が期待できるのか、また、学校と地域だけで解決し切れない限界が存在しているのか、といったことを明らかにすることが重要なのではないか。なお、上記の離島に関するいずれの研究においても地域による学校への支援に着眼点が置かれており、学校との連携による地域の活性化の視点が見落とされているように思われる。学校と地域の連携による教育実践を考察する

際、学校と地域の双方向の関係を視野に入れるべきであろう。

本研究は、長崎県佐世保市黒島町民・黒島小中学校合同運動会を事例に、離島における地域と学校の連携による教育実践の可能性と限界を明らかにすることを研究目的とする。

この目的を達成するため、以下の手順により研究を進める。

第一に、長崎県佐世保市黒島地区及び黒島小中学校を概観した上で、黒島町民・黒島小中学校合同運動会の概要を確認する。(第Ⅱ章)

第二に、学校職員、公民館職員、地域住民(それぞれ1人)への聞き取り調査により、町民運動会と小中学校運動会が合同開催に至った経緯を明らかにする。(第Ⅲ章)

第三に、学校職員、公民館職員、地域住民(それぞれ1人)への聞き取り調査により、黒島町民・黒島小中学校合同運動会の実態を明らかにする。(第Ⅳ章)

第四に、上記の調査を踏まえ、黒島の取り組みを事例として離島における地域と学校の連携による教育実践の可能性と限界を明らかにする。(第Ⅴ章)

Ⅱ. 黒島町民・黒島小中学校合同運動会の概要

1. 黒島地区及び黒島小中学校の概要

黒島¹⁾は、長崎県佐世保市本土より西海上12kmの所に位置する、周囲12.5kmで、面積5.37km²の、九十九島の中で最大の島である。1954年から佐世保市に編入され、主な産業として漁業や農業が挙げられる。本村、東堂平、古里、日数、根谷、名切、田代、蕨という8つの地区からなる島であるが、最新の統計データとして2020年7月までは、人口が394人²⁾である。

黒島では、高校が設置されておらず、島内唯一の学校は黒島小中学校である。黒島小中学校³⁾は、2018年度開校された義務教育学校であり、従来の黒島小学校と黒島中学校が1つに合併したものである。黒島はまゆう学園とも別称されている。1年から6年までは前期課程と、7年から9年までは後期課程と呼ばれる。在籍の児童生徒数は、2019年10月の調査時には、前期課程と後期課程を合わせて15人⁴⁾に減少している。

2. 黒島町民・黒島小中学校合同運動会の概要

黒島小中学校は、「9年間を通して育てる ふるさとを愛し、未来を切り開く黒島っ子の育成」という教育目標を掲げており、多種多様な教育活動を展開している。開校当年(2018年度)には、第1表で示したように、多くの学校行事が行われた。表に示される通り、黒島町民・黒島小中学校合同運動会は、黒島小中学校において学校行事の1つとして位置付けられており、前期課程と後期課程の児童生徒が共に参加する主要な行事の1つである。学校職員への聞き取り調査によれば、このような合同運動会は、卒業式や入学式と同じく「大切な行事の1つ」であるとともに、体育学習の成果を発表する場として「体育行事の一環」でもあるという。また、黒島町民・黒島小中

学校合同運動会の開催状況は毎年、佐世保市役所ホームページ⁵⁾に掲載される「黒島地区公民館だより」においても取り上げられている。黒島地区公民館職員への聞き取り調査によれば、合同運動会は、学校行事の一環のみならず、夏祭り等と同様に「地域の行事の一環」でもあるという。

なお、第2表は、2019年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会のプログラム⁶⁾である。それに示されたように、前期課程と後期課程の児童生徒のみならず、0～6歳、16～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の各年齢層の町民の参加も可能である。また、「種別」に関しては、個人や団体だけでなく、親子で一緒に楽しむことも見られている。「種目」として、競技のみならず、ゲームや表現活動など、多様な項目が設置されている。

Ⅲ. 町民運動会と小中学校運動会の合同開催に至った経緯

1. 合同開催に至った経緯

学校職員と公民館職員への聞き取り調査によると、黒島町民・黒島小中学校合同運動会は2003年（平成15年）に第1回が実施され、その前、町民運動会と小中学校運

第1表 黒島小中学校2018年度の主な学校行事

月	主な行事	月	主な行事
4	入学式 歓迎集会・遠足	10	(後) 駅伝大会 (前) 秋の遠足 (後) 職場体験学習 落成式
5	(前) 修学旅行 (後) 中間テスト	11	親子ふれあい球技大会 (後) 中間テスト
6	(後) 市中学校体育大会	12	(後) 魚さばき方教室 (前) 漁業体験
7	シーカヤック体験学習 (後) 宿泊体験学習 (後) 期末テスト	1	児童生徒会引継ぎ式 給食集会
8	平和集会	2	黒島豆腐作り (後) 学年末テスト
9	合同運動会	3	お別れ集会 卒業式・修了式

(義務教育学校紹介リーフレット⁷⁾より引用)

動会は別々で行われていたという。また、町民運動会と小中学校運動会が合同開催に至る前は児童生徒数も多かったので、小学校運動会と中学校運動会も別々で行われていた。つまり、黒島における運動会は最初、小学校運動会、中学校運動会、町民運動会の3つがあったという。

その後、在籍の児童生徒数が徐々に減っていくに伴い、小学校と中学校の合併がされていないにもかかわらず、運動会は先に小中合同開催になったのである。児童生徒

第2表 2019年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会プログラム

順	学年	種別	組数	種目別	予定時刻
1	後期課程	個人	3	短距離走	9:25
2	0~6歳	個人	3~	かけっこ	
3	前期課程	個人	3	短距離走	
4	60~69歳	個人		パン食い競争	
5	全学年	団体	団	赤白対抗綱引き	10:10
6	こども園	個人	2	三輪車レース	
7	前期課程	チャンス	3	運命のジャンケン	
8	後期課程	親子	団	ボールかごキャッチ	
9	70歳以上	個人		中身は何かな	
10	全学年	団体	団	赤白対抗玉入れ	
11	前期課程	親子	3	親子でなかよく	10:50
12	こども園	表現		楽しく踊ろう パプリカ☆ダンス	
13	後期課程	チャンス	団	はさヨチ2019	
14	50~59歳・来賓	個人		熱中症対策には これが一番	
15	全学年	表現		Le-morning	
16	一般	表現		黒島美人おどり	12:45
17	全学年	団体	団	応援合戦	
18	16~49歳	個人		私色白です (アメ食い)	
19	全学年	表現		よさこいソーラン	13:35
20	一般	団体	団	町民対抗綱引き	
21	全学年	団体	団	赤白対抗リレー	

(黒島小中学校提供資料より一部抜粋)

数がさらに少なくなるにつれ、小学生と中学生だけで競技はすでに成り立たないようになったため、町民と一緒に運動会を行うようになったのである。

また、少子高齢化が進むにつれ、競技が徐々にできなくなったため、町民運動会もしばらく中止を余儀なくされた。学校の方から声を掛けられたことを契機に、学校と地域の合同開催になったのである。

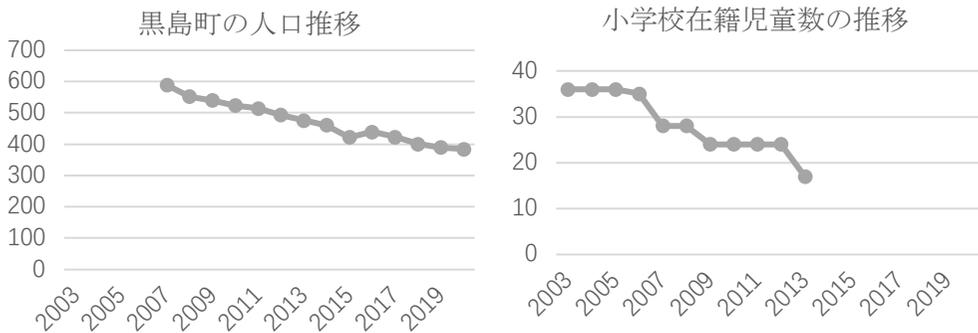
学校職員：一番多い時は、小学校 350 名以上、で、中学校が 180 名ぐらいこう、人数がいたのですけど、そういう時には当然、小学校の運動会、中学校の運動会という形で、学校単独でやっていました。これが、やっぱりどんどんどんどん少なくなつて、小学校どんどんどんどん少なくなった段階で、まだ合併はしていなかったのですけど、その段階から小学校と中学校の運動会を一緒にやろう、という話がまず出てきました。そして、さらに、少なくなつて今 15 名なのですけど、もう小中学校だけでは、ちょっと競技も成り立っていかないなあ、ということで、その当時、町民は町民で運動会をやっていたのですけど、じゃ一緒にやろうかということで、一緒に運動会になりました。

公民館職員：だんだんだんだん、要は高齢化と少子化になってしまつて、もう競技が、ですね、8 町内対抗という競技がもうできないというところまで来てしまつたんですね。じゃ、どうするかということで、町民運動会はしばらくやめていたんですよ。ただ、学校から一緒にやらない、という話があったので、じゃ、それにうちが乗っかりましょう、ということで。

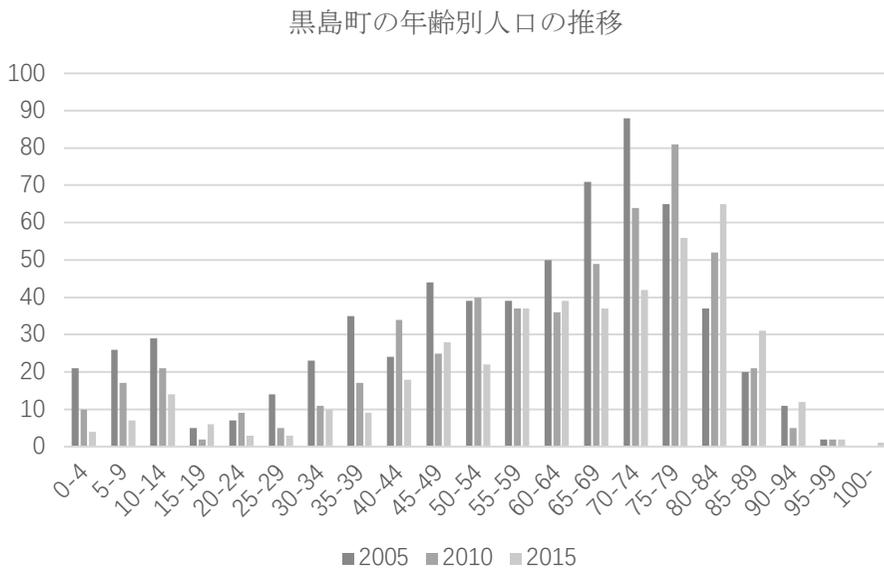
2. 合同開催になった前後の様子

人口の減少に伴い、8 地区の人数差も大きくなってきており、昔のような対抗戦がすでにできなくなっている。例えば、2018 年度開催の合同運動会⁸⁾では、参加者が最も多かった地区は名切で、参加者数が 53 人であったのに対して、参加者が最も少なかった地区は日数で、参加者数がわずか 4 人であった。昔のように行われていた島民の間の競技、とりわけ地区別の対抗戦がなくなったため、地域住民の参加者の寂しい気持ちりが認められている。

地域住民：地区別の、そういう対抗戦が、全然もなくなったから。(中略)昔はだけけど、そういうのがないから、ちょっと寂しいかな。(中略)多分、町内によって、人数が多いところと少ないところの差が多くて、参加できる人たちが、ここの私の地区がすごく多いけど、少ないところはもうほんのちょっとしかいないから、大変みたいな感じで、なっているのかなと思うのです。対抗戦ができないような感じかな。



第1図 黒島町の人口推移及び小学校在籍児童数の推移
(佐世保市統計ポータルサイト⁹⁾及び黒島小学校学校沿革誌をもとに筆者作成)



第2図 黒島町の年齢別人口の推移
(佐世保市統計ポータルサイト¹⁰⁾をもとに筆者作成)

このように、運動会の合同開催になった最大の要因は、少子高齢化に伴う人口の減少であり、また、合同開催になった後でも地区別の対抗戦など、昔で行われていた多くの種目ができなくなったこともある。続いて、第1図は、初回（2003年）の合同運動会が行われた後の黒島町の人口推移及び小学校の在籍児童数の推移を示しているものである。第2図は、黒島町の年齢別人口の推移である。そこで見られるように、2003年からは黒島の人口構成がますます少子高齢化になっていくとともに、人口数も在籍

児童数もさらに減ってきている。児童生徒数がさらに減少していくにつれ、運動会の規模自体も縮小しなければならず、これからの合同運動会の開催も脅かされているのではないかという懸念が、学校職員への聞き取り調査から認められている。

IV. 黒島町民・黒島小中学校合同運動会の実態

1. 合同運動会の実施における学校と地域の役割分担

a) 黒島地区自治協議会の機能

黒島町民・黒島小中学校合同運動会の開催には、黒島地区自治協議会が大きな役割を果たしている。ここで言う地区自治協議会とは、「町内会等を中心に様々な分野で活動する地域内の各種団体が集まり、地域の情報を共有し、地域の課題について話し合い、その解決に向けて活動する、市長が認定した市民団体のこと」¹¹⁾である。佐世保市¹²⁾では、第6次総合計画後期基本計画における重点的に推進すべき事業群の1つとして「地域の絆プロジェクト」が挙げられ、その中で2014年から2017年まで各地区に自治協議会を設立することが主要な施策として位置付けられている。2017年度をもって、黒島地区も含めて佐世保市の27地区に全て地区自治協議会が設立された。

佐世保市発行のパンフレット¹³⁾により、地区自治協議会が立ち上げる前は、各地区における諸団体が単独で行動することが多く見られるのに対して、設立後は、学校も住民も様々な市民団体も1つの場で集まって協議することが可能となり、横の連携による活動の可能性が大きくなったのである。また、自治協議会の運営の仕組みに関しては、諸団体が生涯学習部会等の7部会を構成し、7方面の役割を果たしている。自治協議会の意思決定機関として総会と理事会が設置されており、総会は最高の議決機関であり、理事会は総会に次ぐ常設の議決機関である。理事会は、自治協議会会長、副会長、各部長、総務部会員で構成され、また協議会直轄事業を円滑に進めるために、実行委員会を置くこともできる¹⁴⁾。自治協議会では、会計事務を処理する事務局が地区公民館内に設置され、行政や地区公民館との連携関係を保ちつつ、自治協議会の諸活動を推進している。

黒島地区自治協議会¹⁵⁾は、2017年7月に「自分たちの手によるまちづくり」を基本理念として発足し、総務部会、生涯学習部会、福祉部会、青少年部会の4つの部会からなっている。その意思決定機関として総会と理事会が設置されているが、直轄事業を円滑に推進するために、実行委員会が毎年何回も行われる。2019年度第2回黒島地区自治協議会委員会資料¹⁶⁾により、町民・小中学校合同運動会の開催は、当時の委員会の議題の1つとして位置付けられていた。つまり、2019年度9月開催予定の黒島町民・黒島小中学校合同運動会が実施されることに先立ち、同年度8月開催の自治協議会委員会においてまず議題の1つとして討論されたということである。

また、合同運動会の開催では黒島地区自治協議会がいかなる役割を果たしているの

かに関しては、聞き取り調査から以下の2点が窺われる。1点目は、黒島地区自治協議会が合同運動会の開催企画を承認する場である。言い換えれば、どのような種目をいつ、どこで、いかに実施するのかなどといったことを最終的に決める場である。2点目は、承認された開催企画を実行するために、町内会をはじめとする諸団体に協力してもらうための役割分担の場である。

学校職員：主に役員の方、事務局長さんとか、役員の方と、例えば、今年は、これくらいの競技するにしようとか、どれくらい話して入れようとか、そういう話をした上で、最終的に決めるのは、大きな自治協議会の場です（後略）。

公民館職員：（前略）それぞれの部会に、要はイベントとか事業する時には、まず部会にですね、要は会議、まあ、自治要項というのを作って、今度は、こういう会議で、要はイベントをしたいです、という、その部会で大体話し合っ決めてもらうんです。そして、最後に、この人たちに全部集まってもらうんですよ。委員会というのを開いて、何月何日に、こういうイベントを、何々部会でもう決めましたので、これを実施していいですかって人たちに承認をもらうんです。で、この中で、今度は実際に動いてもらう人たちがいるのね、この人たちは代表ですけど、例えば、婦人会で会員が60人ぐらいがいるんですけどね、奥様かおかあさんとかね、そういう人たちの代表が来て、婦人会は、何と何をしてください、お願いするんで、そうしたら今度、婦人会の会長さんは、自分の婦人会という会合を開いてもらって、そこで実はこういうイベントが決まりましたので、こういうことを婦人会に頼まれましたので、誰が何をするのか、今から決めます、というまた会合をってもらうんです。

b) 学校と地域の「棲み分け」

2019年度第2回黒島地区自治協議会委員会資料の一部である2019年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会の開催要項（案）¹⁷⁾をもとに、その開催に必要とされた諸作業の項目及びその役割分担は、第3表にまとめた。そこで見られるように、合同運動会の開催は、学校と地区自治協議会や町内会の連携によって実現されるものであるが、その役割分担もまた明確なものになっている。

そこで、学校の種目は学校でそれを運営し、地域の種目は地域でそれを運営すると、各自で責任を持ち、「棲み分け」をしながら一緒に楽しむという形が取られている。その原因として、児童生徒数が少ないので「ずっと出っぱなし」という形になっている一方、それに対応する職員数が限られているという現状が窺える。そうした中、学校側と地域側はそれぞれ責任を持って「棲み分け」をするようになったのも自然な成り行きであると言えよう。

学校職員：(前略) 地域の競技を決めて、じゃ何をするのも地域の方々に話し合
って決めてもらって、その運営も全てお願い、準備から運営、放送から、全てお願
いをするようになりました。なので、地域競技は地域が責任を持ってやるというこ
とで棲み分けをして、で、一緒に楽しもうという今現在の形になっています。(中
略) 地域競技の準備も一緒にやったりとか、ところが、もう、それができないよう
な職員の数だし、子どもたちの数で、子どもずっと出っぱなしというような形にな
るので、今のような形に棲み分けをしましょう、地域の競技は地域の方で、学校の
競技は学校で、お互い棲み分けをして、しっかり頑張っていきましょう、という形
になったと。

2. 合同開催の児童生徒及び地域住民にとっての意義

聞き取り調査によれば、合同開催になってからの運動会には、地域住民の8割が参
加しており、その中で運動会に出なくとも出席しようとする人もいる。合同運動会は、
各地区に住んでいる普段会わない島民たちが集まる触れ合いの場としての役割を持っ
ており、特に子供がいない高齢者たちが運動会に出席することで、子供たちの競技を
応援したり彼らの元気で頑張っている姿を見たりして子供との触れ合いも可能となっ
ていると認識されている。

また、体育学習の成果を発表する場でもある合同運動会においては、子供たちが地
域住民から応援してもらおうと、勇気もやる気も出てきて盛り上がるということに意義
を見出すことができる。

第3表 2019年度合同運動会の開催における役割分担

作業項目	担当者
プログラム編成	学校
プログラム並びに 競技種目別参加者名簿の配布	各町内会長
保険加入及び賞品準備	黒島地区自治協議会
賞品運搬	公民館（公用車、地域おこし協力隊の車等）
会場設営及び当日の係	小中学生・保護者・教職員・自治協議会委員

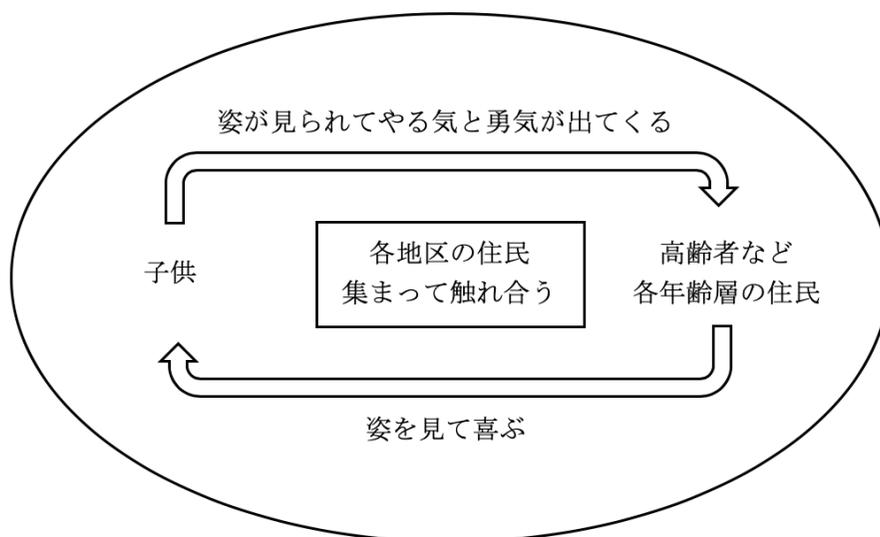
(2019年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会の開催要項(案)をもとに筆者作成)

公民館職員：九十何歳までのおじいちゃん、おばあちゃんが、運動会に集まってくるわけでしょう。で、久しぶりに会ったね、というのが結構あって、子どもとの触れ合い、それから、他地区との触れ合い、そういうの、私たちは目的にしています。

(中略) そういう運動会っていうイベントがあることによって、学校に集って子どもたちがこんなことをしているんだとかね、こんなに頑張っているんだな、というのを見る、そして、応援をする、というのが意義があるのかなと思います。

学校職員：やっぱり子どもたちも地域の方にたくさん応援していただくと、発表の場として盛り上がるし、いろんな、こう、勇気とかやる気とか、そういうものも出てくるので、一緒にやるメリットってとても大きいなあ、というふうに私も私たちも感じています。

以上の内容は、第3図のようにまとめられる。つまり、合同運動会は、各地区の住民が集まって交流する場であると同時に、見たいことと見られたいことという心理的要因に媒介されることで、高齢者と子供の触れ合いの場にもなった、という二重の機能を果たしている。それに関しては、「合同になったほうが、町の、村の、島の人たちが集まりやすいので、それはいいかな」「子どもがいないおじいちゃん、おばあちゃんとかでも、運動会はやっぱりすごく楽しみにしている感じで、やっぱり運動会だから応援に行こうとか、見に行こうとか言う方は、よく話を聞きます」というように、地域住民からも同じような意見が認められている。



第3図 黒島町民・黒島小中学校合同運動会の意義

(聞き取り調査をもとに筆者作成)

V. おわりに：黒島事例からみる地域と学校の連携による教育実践の可能性と限界

本章では、以上の考察を踏まえ、黒島町民・黒島小中学校合同運動会を事例として、離島における地域と学校の連携による教育実践の可能性と限界を明らかにする。

まず、可能性について2点指摘する。

第一に、合同運動会の教育実践は、第3図で示したように、子供の成長に資するとともに地域の活性化にもつながっていくことである。それは、地域から学校への一方的な支援ではなく、学校と地域の連携によって初めて成り立つものであり、その効果もまた双方向的なものである。

ただ、合同運動会の関係者たちへの聞き取りに対する分析から、その効果は、姿を見たいことと姿が見られたいことという心理的要因によって媒介されていることが確認できたが、これからの実践の展開への示唆をめざして、その作用の仕組みに関する研究も必要であろう。

第二に、学校と地域の間に関係を共有して緊密に連携する仕組みが出来上がったため、その教育実践を円滑に推進することが可能となっていることである。黒島の場合、地区自治協議会の成立により、学校の校長も教頭も、地域の町内会長も諸団体の会長も、皆同じく自治協議会の委員として、ある特定の場集まり、協議を行うことが可能となっている。そこで、様々な活動に関して情報を交換したり互いの協力を求めたりすることが制度的に保証されるようになっている。

ただ、黒島町民・黒島小中学校合同運動会は、2003年に第一回が実施されたのに対して、黒島地区自治協議会の成立は2017年のことである。地区自治協議会の立ち上がる前後の合同運動会は、組織上いかなる相違点を持っているのかなど、地区自治協議会の効果に関する実証的研究も必要であろう。

続いて、限界について1点指摘する。

それは人口減少によって生まれた合同開催は、これからも人口減少の傾向にその存立さえ脅かされることである。すでに触れたように、人口の減少によってもたらされた影響が今現在の合同運動会においても現れており、その影響の具体的な形として、1つは運動会実施時の地域と学校の「棲み分け」であり、もう1つは8地区の対抗戦ができなくなったことによる地域住民の「寂しい」気持ちであると言えよう。そもそも町民運動会と小中学校運動会が合同開催になったのは、少子高齢化及び人口減少が原因で地域と学校だけで運動会が成り立たなくなってきたからである。なお、人口がさらに減少していくにつれ、種目のさらなる減少や規模のさらなる縮小に直面せざるをえず、その存続も脅かされるかもしれないと考えられる。

謝辞

本稿の執筆にあたり、多くの方々にご協力頂き、誠にありがとうございました。黒島小中学校の教職員の方々、児童生徒の皆様に、大変お世話になりました。また、黒島小中学校の校長先生惣田正宏様、黒島地区公民館長山内一成様、民宿つるさきの皆様に、貴重なお話をお聞かせ頂き、心より御礼申し上げます。

注

- 1) 黒島観光協会ホームページより
<https://kuroshimakanko.com/index.php/category/about>（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 2) 佐世保市統計ポータルサイトより（町別推計人口参照）
<https://www.city.sasebo.lg.jp/kikaku/seisak/toukei-jinkou.html>（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 3) 佐世保市立黒島小中学校ホームページより
http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kuroshima/asp/kiji/pub/default.asp?c_id=11687（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 4) 聞き取り調査より
- 5) 佐世保市役所ホームページより
<https://www.city.sasebo.lg.jp/kyouiku/syakai/shougai-chirashi.html>（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 6) 2019年度開催予定の黒島町民・黒島小中学校合同運動会は、台風で実施できなかった。
- 7) 佐世保市立黒島小中学校ホームページより
http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kuroshima/asp/kiji/pub/default.asp?c_id=11687（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 8) 黒島小中学校提供資料「令和元年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会開催要項（案）」より
具体的には、2018年度各地区の参加者数は、以下の通りである。

田代	48名	蕨	32名
名切	53名	本村	28名
東堂平	35名	日数	4名
古里	29名	根谷	13名
島外	0名		
合計	242名（保険加入）		
- 9) 佐世保市統計ポータルサイトより（町別推計人口参照）
<https://www.city.sasebo.lg.jp/kikaku/seisak/toukei-jinkou.html>（最終閲覧日：2020年7月26日）
- 10) 佐世保市統計ポータルサイトより（町別年齢別推計人口参照）

- <https://www.city.sasebo.lg.jp/kikaku/seisak/toukei-jinkou.html> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 11) 佐世保市役所ホームページより
<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/comkyo/jichikyou.html> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 12) 佐世保市役所ホームページより
<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/comkyo/chikomitowa.html> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 13) 佐世保市役所ホームページより (佐世保市地域コミュニティ推進事業に関するパンフレット参照)
<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/comkyo/documents/chikomipanfurutto.pdf> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 14) 黒島小中学校提供資料「黒島地区自治協議会規約」より
- 15) 佐世保市役所ホームページより
<https://www.city.sasebo.lg.jp/siminseikatu/comkyo/kurosima-jitikyoo.html>
(最終閲覧日：2020年7月26日)
- 16) 黒島小中学校提供資料「令和元年度第2回黒島地区自治協議会委員会資料」参照
- 17) 黒島小中学校提供資料「令和元年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会開催要項(案)」参照

文献

- 原田純治・村田義幸・進野智子・赤崎眞弓・福田正弘・平岡賢治・小島道生 (2006) : 離島における教育の実情と課題. 南太平洋海域調査研究報告, **45**, pp. 1-5.
- 倉知典弘 (2017) : 学校と地域の連携をめぐる政策展開過程の検討—「チームとしての学校」の意義について—. 吉備国際大学研究紀要 (人文・社会科学系), **増刊**, pp. 65-78.
- 森下浩史・松園光代・岩永祥子 (2010) : 長崎県における離島教育の現状と地域を生かした離島教育への提言. 長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, **9**, pp. 159-173.
- 黒島観光協会ホームページ.
<https://kuroshimakanko.com> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 佐世保市立黒島小中学校ホームページ.
<http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kuroshima> (最終閲覧日：2020年7月26日)
- 佐世保市役所ホームページ.
<https://www.city.sasebo.lg.jp> (最終閲覧日：2020年7月26日)

佐世保市統計ポータルサイト.

<https://www.city.sasebo.lg.jp/kikaku/seisak/toukeiportal.html> (最終閲覧日：2020年7月26日)

黒島小中学校提供資料：

「令和元年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会プログラム」

「令和元年度第2回黒島地区自治協議会委員会資料」

「令和元年度黒島町民・黒島小中学校合同運動会開催要項（案）」

「黒島地区自治協議会規約」